

ISSN 2188-4676

東京外国語大学 国際関係研究所 <令和三（2021）年度活動報告書>

『現代世界の諸相』

(Vol. 11 - 2021)

Annual Report, 2021

Tokyo University of Foreign Studies

Institute of International Relations



東京外国語大学 国際関係研究所

Contents

目次

1. 2021 年度開催イベント一覧 7
(国際関係研究所研究会、第2回 TUFSS グローバル・スタディーズ学会、
リレー講義「アジア共同体を考える」)

2. 国際関係研究所 研究会
国際関係研究所研究会 (全2回)
 - ◆「遅れてやってきたアイルランド政党政治の揺らぎ：1980 - 90 年代を中心に」
(2021 年 9 月 25 日)
(報告者) 浅川 聖氏〔本学大学院博士後期課程〕
 - ◆「紛争転換の場としての家族：北アイルランド紛争を生きた母親たちの生活史」
(2021 年 9 月 25 日)
(報告者) 大森 優美氏〔クイーンズ大学ベルファスト大学院博士後期課程〕
..... 15
 - ◆「茶のしづく石鹼事件—福岡訴訟を中心に」(2022 年 3 月 7 日)
(報告者) 鈴木 美弥子氏〔本学大学院総合国際学研究院教授〕
..... 17
- 連続研究会「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」(全7回)
 - 第1回 「開発の国際法の再生」(2021 年 5 月 13 日)
(報告者) 小寺 智史氏〔西南学院大学法学部教授〕
..... 23
 - 第2回 「食料への権利の射程」(2021 年 7 月 29 日)
(報告者) 松隈 潤氏〔本学大学院総合国際学研究院教授〕
..... 25
 - 第3回 「共約不可能性と国際法」(2021 年 10 月 18 日)
(報告者) 加藤 雄大氏〔東北医科薬科大学専任講師〕
..... 27
 - 第4回 「国際法の歴史を研究することにはどのような意味があるか」(2021 年 12 月 13 日)
(報告者) 柳原 正治氏〔九州大学名誉教授・放送大学教授〕
..... 29

第5回 「国家管轄権外区域に適用される法原則としての『人類の共同の財産』について」 (2022年3月10日) (報告者) 佐俣 紀仁氏〔武蔵野大学准教授〕	31
第6回 「国際人権法についての共約不可能性一性的指向に関する法的信念の分析を 例として」(2022年3月16日) (報告者) 佐藤 義明氏〔成蹊大学教授〕	33
第7回 「国際法学における『地域』観念の意義」(2022年3月31日) (報告者) 沖 祐太郎氏〔九州大学特任准教授〕	35
東南アジア・アフリカ間米貿易研究会(全2回)	
第1回 「国際食料安全保障と東南アジアからアフリカへの米輸出：タイの事例」 (報告者) 宮田 敏之氏〔本学大学院総合国際学研究院教授〕 (2021年7月27日)	37
第2回 ① “Paddy Trade and Market Structure in the Colonial Mekong River Delta: An Application of Social Network Analysis” (報告者) 高橋 墨氏〔東海大学教授〕 ② 「東南アジア(タイ)の米輸出とアフリカの米輸入」 (報告者) 宮田 敏之氏〔本学大学院総合国際学研究院教授〕 (2022年2月7日)	39
<hr/>	
3. 連続リレー講義「アジア共同体を考える」(全13回) 実施一覧	45
<hr/>	
4. その他イベント TUFS グローバル・スタディーズ学会 2021年度(第二回)大会プログラム	53
<hr/>	
5. 国際関係研究所定期刊行物紹介	56
<hr/>	
6. 国際関係研究所研究員一覧	59
<hr/>	
6. 編集後記	60

開催イベント一覧

国際関係研究所 研究会

実施日		報告者・題目
1	2021年5月13日	<p>連続研究会（第1回）・国際法の共約不可能性に関する国際共同研究 「開発の国際法の再生」</p> <p>報告者：小寺 智史氏（西南学院大学法学部 教授・国際法） コメント：佐保 紀仁氏（武蔵野大学法学部 准教授・国際法） 司会：松隈 潤氏（本学大学院総合国際学研究院 教授・国際法） ＜共催＞西南学院大学 ※Zoomによるオンライン研究会</p>
2	2021年7月27日	<p>第1回 東南アジア・アフリカ間米貿易研究会 「国際食料安全保障と東南アジアからアフリカへの米輸出：タイの事例」</p> <p>報告者：宮田 敏之氏（東京外国語大学 教授） 参加者：坂井 真紀子氏（東京外国語大学 准教授） ：高橋 墨氏（東海大学 教授） ：小林 知氏（京都大学 准教授） ＜共催＞ 京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点 「東南アジア研究の国際共同研究拠点」 ・令和3年度共同研究「国際食料安全保障と東南アジアの米輸出」（研究代表者・宮田 敏之氏） ※Zoomによるオンライン研究会</p>
3	2021年7月29日	<p>連続研究会（第2回）・国際法の共約不可能性に関する国際共同研究 「食料への権利の射程」</p> <p>報告者：松隈 潤氏（本学総合国際学研究院 教授・国際法） コメント：小寺 智史氏（西南学院大学法学部 教授・国際法） 司会：佐保 紀仁氏（武蔵野大学法学部 准教授・国際法） ※Zoomによるオンライン研究会</p>

4	2021年9月25日	<p>国際関係研究所研究会</p> <p>◆「遅れてやってきたアイルランド政党政治の揺らぎ：1980-90年代を中心に」 報告者：浅川 聖氏（東京外国語大学 大学院博士後期課程）</p> <p>◆「紛争転換の場としての家族：北アイルランド紛争を生きた母親たちの生活史」 報告者：大森 優美氏（クイーンズ大学ベルファスト 大学院博士後期課程）</p> <p>※Zoomによるオンライン研究会</p>
5	2022年10月18日	<p>連続研究会(第3回)・国際法の共約不可能性に関する国際共同研究 「共約不可能性と国際法」</p> <p>報告者：加藤 雄大氏（東北医科薬科大学 専任講師・国際法） コメント：佐藤 義明氏（成蹊大学法学部 教授・国際法） 司会：松隈 潤氏（本学大学院総合国際学研究院 教授・国際法）</p> <p>※Zoomによるオンライン研究会</p>
6	2022年12月13日	<p>連続研究会(第4回)・国際法の共約不可能性に関する国際共同研究 「国際法の歴史を研究することにはどのような意味があるか」</p> <p>報告者：柳原 正治氏（九州大学 名誉教授、放送大学 教授・国際法） 司会：松隈 潤氏（本学大学院総合国際学研究院 教授・国際法）</p> <p>※Zoomによるオンライン研究会</p>

7	2022年2月7日	<p>第2回 東南アジア・アフリカ間米貿易研究会</p> <p>◆題目：“Paddy Trade and Market Structure in the Colonial Mekong River Delta: An Application of Social Network Analysis” 報告者：高橋 壘氏（東海大学 教授）</p> <p>◆題目：「東南アジア（タイ）の米輸出とアフリカの米輸入」 報告者：宮田 敏之氏（本学大学院総合国際学研究院 教授） コメント：坂井 真紀子氏（本学大学院総合国際学研究院 准教授） ：小林 知氏（京都大学 教授）</p> <p><共催> 京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点 「東南アジア研究の国際共同研究拠点」 ・令和3年度共同研究「国際食料安全保障と東南アジアの米輸出—アフリカ向けタイ米輸出を中心に」 ※Zoomによるオンライン研究会</p>
8	2022年3月7日	<p>国際関係研究所研究会</p> <p>「茶のしずく石鹼事件 — 福岡訴訟を中心に」</p> <p>報告者：鈴木 美弥子氏（本学大学院総合国際学研究院 教授） ※Zoomによるオンライン研究会</p>

9	2022年3月10日	<p>連続研究会(第5回)・国際法の共約不可能性に関する国際共同研究</p> <p>「国家管轄権外区域に適用される法原則としての『人類の共同の財産』について」</p> <p>報告者：佐俣 紀仁氏（武蔵野大学 准教授・国際法） 討論者：加藤 雄大氏（東北医科薬科大学 専任講師・国際法） 司会：小寺 智史氏（西南学院大学 教授・国際法） <共催>西南学院大学</p> <p>※Zoomによるオンライン研究会</p>
10	2022年3月16日	<p>連続研究会(第6回)・国際法の共約不可能性に関する国際共同研究</p> <p>「国際人権法についての共約不可能性—性的指向に関する法的信念の分断を例として」</p> <p>報告者：佐藤 義明氏（成蹊大学 教授・国際法） 討論者：沖 祐太郎氏（九州大学 特任准教授・国際法） 司会：小寺 智史氏（西南学院大学 教授・国際法） <共催>西南学院大学</p> <p>※Zoomによるオンライン研究会</p>
11	2022年3月31日	<p>連続研究会(第7回)・国際法の共約不可能性に関する国際共同研究</p> <p>「国際法学における『地域』観念の意義」</p> <p>報告者：沖 祐太郎氏（九州大学特任准教授・国際法） 討論者：松隈 潤氏（本学大学院総合国際学研究院教授・国際法） 司会：小寺 智史氏（西南学院大学教授・国際法） <共催>西南学院大学</p> <p>※Zoomによるオンライン研究会</p>

リレー講義「アジア共同体を考える」（秋学期月曜2限）

※本年度は Zoom によるオンライン講義形式。

実施日		講師・題目
1	2021年 10月4日	宮田 敏之氏（本学総合国際学研究院 教授、国際関係研究所 所長） 「ガイダンス&日本の国際サプライチェーンと東南アジア」
2	2021年 10月11日	山崎 直也氏（帝京大学外国語学部外国語学科 教授） 「戦後中台対立／交流の最前線・金門島から考える」
3	2021年 10月18日	遊川 和郎氏（亜細亜大学アジア研究所 教授） 「香港：変質する一国二制度」
4	2021年 10月25日	佐藤 洋治氏（ユーラシア財団 from Asia 理事長） 「真理の探究」
5	2021年 11月1日	丹羽 泉氏（本学総合国際学研究院 教授） 「日韓関係を考える」
6	2021年 11月8日	相川 雅人氏（三菱地所アジア社 社長） 「日系ディベロッパーのアジア事業戦略」
7	2021年 11月15日	内山 直子氏（本学総合国際学研究院 准教授） 「アジア太平洋とメキシコ：日系自動車産業の事例」
8	2021年 11月29日	志田 仁完氏（環日本海経済研究所 研究員） 「コロナ禍を通して見たロシアと世界」
9	2021年 12月6日	大庭 三枝氏（神奈川大学 教授） 「インド太平洋の地域秩序変容と日本」
10	2021年 12月13日	山本 吉宣氏（東京大学 名誉教授） 「米中対立と東アジア」

11	2021年 12月20日	大西 康雄氏（科学技術振興機構 特任フェロー） 「中国の対外経済政策の近況：一带一路の成果と課題」
12	2022年 1月10日	中西 嘉宏氏（京都大学東南アジア地域研究研究所 准教授） 「ミャンマーの政変と今後を考える」
13	2022年 1月17日	小林 寛史氏（IDACA：アジア農業協同組合振興機関 常務理事） 「グローバル世界の日本農業」

その他

1	2021年12 月25日	TUFS グローバル・スタディーズ学会 2021年度（第二回）
---	-----------------	---------------------------------

国際関係研究所 研究会

国際関係研究所研究会

第1回

報告①：遅れてやってきたアイルランド政党政治の揺らぎ：1980-90年代を中心に

報告者：浅川 聖氏（東京外国語大学 大学院博士後期課程）

報告②：紛争転換の場としての家族：北アイルランド紛争を生きた母親たちの生活史

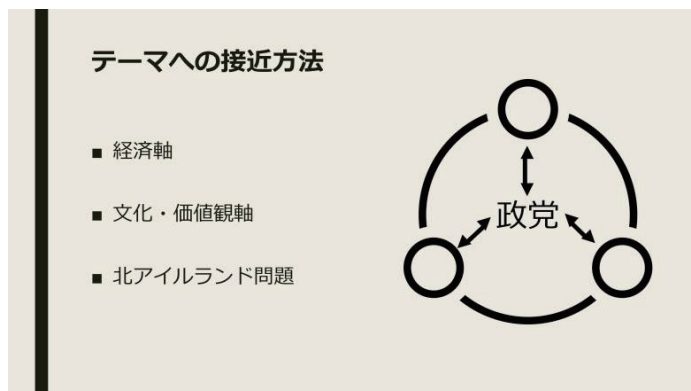
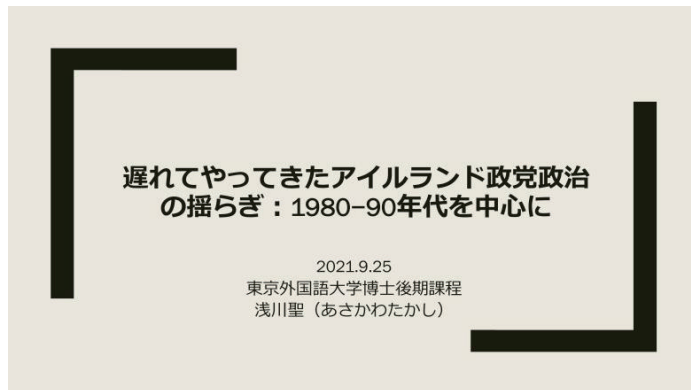
報告者：大森 優美氏（クイーンズ大学ベルファスト 大学院博士課程）

実施日：2021年9月25日

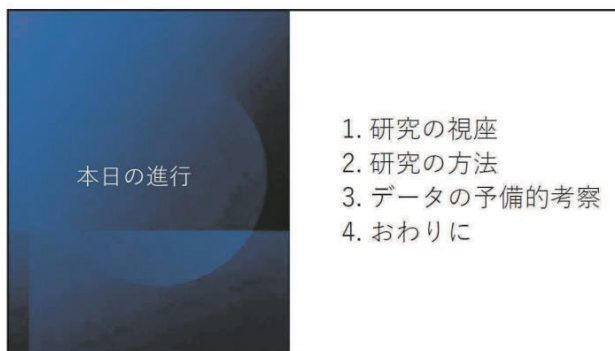
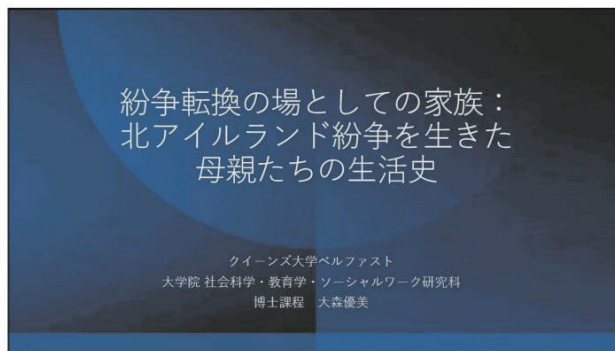
会場：Zoomによるオンライン研究会

博論研究の報告会として実施した。第一報告（浅川氏）はヨーロッパ政治研究における「アイルランド例外主義」との見方を踏まえ、80年代から90年代のアイルランド政党政治の展開について、近隣諸国との時期的なずれとの理解と、同国固有の要素をそれぞれ指摘した。第二報告（大森氏、本学修士）はベルファスト市内のカトリック・プロテスタント対立の前線地区で90年代前後に子育てを行った両派の女性への聞き取りをもとに、子どもへの期待や危惧が紛争のなかの自己規定と相互にいかに関わっているかを示した。

報告①：遅れてやってきたアイルランド政党政治の揺らぎ：1980-90年代を中心に



報告②：紛争転換の場としての家族：北アイルランド紛争を生きた母親たちの生活史



東京外国語大学
国際関係研究所
研究会

茶のしずく石鹼事件 ー福岡訴訟を中心に

報告者：鈴木 美弥子
(東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 教授)

2022年3月7日月曜日
16:00~17:00

ZOOMによるオンライン研究会

国際関係研究所研究会

第2回

報告：茶のしずく石鹼事件—福岡訴訟を中心に

報告者：鈴木 美弥子氏（本学大学院総合国際学研究院教授）

実施日：2022年3月7日

会場：Zoomによるオンライン研究会

茶のしずく石鹼の使用によるアレルギー被害の集団訴訟のうち、福岡訴訟を中心に報告を行った。報告後の質疑応答では、アレルギー被害の直接の原因となった汎用品である原材料の製造物責任について、法的のみならず、経済・社会的インパクトの観点からも、活発な質疑応答が行われた。

茶のしずく石鹼事件 — 福岡訴訟を中心に

はじめに

「茶のしずく」石鹼の使用による、アレルギーの発症に関する損害賠償（製造物責任）について、各地で集団訴訟

2012(平成 24)年から、全国 28 か所の地方裁判所で、訴訟が開始、原告の総数は、1350 名以上
2018 年～2019 年 京都、東京、福岡、大阪の地裁で判決 2020 年 福岡高裁で判決

I 製造物責任とは

製造物の欠陥により人の生命、身体又は財産に係る被害が生じた場合における製造業者等の損害賠償の責任（1 条、3 条）

製造物の欠陥 — 2 条 1 項

当該製造物の特性、その通常予見される使用形態、その製造業者等が当該製造物を引き渡した時期その他の当該製造物に係る事情を考慮して、当該製造物が通常有すべき安全性を欠いていること

製造業者等の行為ではなく、製品の性状に焦点を当てる

II 福岡訴訟

X らは、Y1 が販売した洗顔用石鹼（「茶のしずく石鹼」）に配合されていた小麦グルテン加水分解

物（「グルパール19S」）により、アレルギーを発症したとして、損害賠償を請求

被告 Y1 販売のみならず、本件石鹼を発案 「茶のしずく」ブランドを確立 商標表示製造
設備を購入し、Y2 に貸与 → 2 条 3 項 3 号 実質的製造者
Y2 Y1 の委託により、本件石鹼を製造
Y3 「グルパール19S」（上記石鹼の原材料）の製造

地裁判決 福岡地裁平成 30. 7. 18

高裁判決 福岡高裁令和 2. 6. 25

認容額が地裁判決より低下したが、判決内容は、地裁判決とほぼ同じ。

以下、地裁の判決文で見ていく。

III 争点

(1) 本件石鹼の「欠陥」

〈判旨〉

「当該医薬部外品等の引渡しの時点を基準として、当該アレルギー症状の発症が、当該医薬部外品等によって生じ得るアレルギー被害として社会通念上許容される限度を超えるときに、当該医薬部外品等は通常有すべき安全性を欠くものとして、欠陥の存在が認められる」

「当該医薬部外品等の種類及び用途、発生したアレルギー症状の内容及び程度、当該アレルギー症状の発症の蓋然性、当該医薬部外品等の効用・有用性の内容及び程度、当該医薬部外品等について合理的に予期される使用方法及び使用者の属性、使用上の指示・警告の表示の有無及び内容、当該医薬部外品等の引渡し当時の社会通念・常識の前提となる科学・技術の水準及び利用可能性等を総合的に考慮する」

5 判決とも、ほぼ同じ判断基準 石鹼の「欠陥」を肯定

(2) 原材料の欠陥の判断

① 完成品に欠陥があるとされた場合の原材料・部品の欠陥の判断

部品又は原材料の欠陥が専ら当該他の製造物の製造業者が行った設計に関する指示に従ったことにより生じ、かつ、その欠陥が生じたことにつき過失がない場合には、免責される（4 条 2 号）
→ 部品・原材料に欠陥があった場合の免責規定

グルパール19S

- ・ 本件のアレルギー症状のアレルゲン
- ・ 医薬部外品等一般の原材料として使用することができる製品として販売 → 汎用品原材料製造者の完成品製造者への情報提供についての評価等も結論に影響

② < 判 旨 >

「医薬部外品等の原材料について、それがアレルゲンとなることがその欠陥に該当するか否かを判断するに当たっても、基本的には、医薬部外品等についての判断枠組み等と同様の枠組みが妥当」

「完成品である医薬部外品等について、アレルゲンを含有していることを理由として欠陥があると認められる場合であっても、そのような完成品製造業者の選択した用途又は用法に起因する要因がなければ当該原材料が通常有すべき安全性を欠くといえないときには、当該原材料について欠陥の存在が認められない」

グルパール19S

- Y3 — 化粧品原材料として、グルパール19Sとして商品化
パンフレットで、化粧品用精製品を主な用途とする製品として紹介、医薬部外品の原材料として使用することも想定
- Y2 — Z を通じてグルパール19Sの紹介を受け、自社での検討等を経て、グルパール19S を本件石けんに配合
- Y3 は、Y2 がグルパール19Sを石けんの原材料として用いるつもりであることを認識したうえで、グルパール19Sの取引を開始

「Y3 が、Y2 に対してグルパール19Sを提供するに当たり、グルパール19Sを医薬部外品等に配合して使用することについて、具体的な危険性や禁止事項を告知したことはない。

Y3 が、Y2 に対し、グルパール19Sの性能に関する基本的な情報（小麦由来の成分であること、平均分子量が約6万であること等）を提供し、Y3 がグルパール19Sの感作性に関するデータを有していないことも示しているが、グルパール19Sについて、洗顔石けんの原材料として用いることを用途の一つとして想定しつつ行われた取引の過程で示されたものであるから、これらの情報提供によって、グルパール19Sの本件石けんにおける用法について、本件アレルギーのようなアレルギー被害を防止するという観点から適切な警告がされたものということとはできない。」

「汎用的な原材料は、一つ又は少数の種類完成品と対応関係にあるものではないが、通常想定される用途として用いられる完成品の範囲には一定の限定が存在する。そして、その範囲内の完成品の原材料として用いられる限り、完成品の製造業者が通常想定される用法を逸脱して当該原材料を

使用した場合を除き、完成品に、欠陥に該当するような危険性を生じさせないことが、当該原材料の通常有すべき安全性の内容の一つになっていると解される。」

③ その他の地裁判決

(i) 原材料の欠陥の肯定 — 大阪地裁平成 31.3.29 判決

行政規制上、実務慣行上も、実務完成品である化粧品等の製造業者が原材料を含む完成品全体の安全性を確保。原材料製造業者には規制なし — 欠陥の否定要素とせず

(ii) 原材料の欠陥の否定

(a) 東京地裁平成 30.6.22

「本件アレルギーは、グルパール19Sをアレルゲンとして、これに感作されたことによって発症したものであり、その発症数・重症度・回復可能性に鑑みると重篤な疾患であるといえる上に、グルパール19Sを本件石けんの原材料の一つとして配合したことは、通常予見される使用形態に含まれるものであって、これらの事情は、グルパール19Sの欠陥を肯定する方向に働く考慮事情であるといえることができる。

しかしながら、他方で、グルパール19Sは、汎用的な原材料であって、Y1ないしY2の製品設計いかんによっては、本件アレルギーと同様の症状を発症させることなく石けん等を製造することができたものであるところ、本件石けんは、古い角層を除去してシミを落とす効果をねらった製品であって、一般の皮膚よりも物質が透過しやすい顔面の皮膚について、古い角層を除去して一段と経皮吸収性が高まったところへ、ダブル洗顔を推奨することで、経皮感作が生じやすくなっており、また、本件石けんの泡の一部が眼球や鼻の粘膜という体表で最も敏感な組織に大量に暴露されたことがうかがわれ、このような製品設計こそが本件アレルギーの発症の重要な要因となっていたものというべきである。加えて、Y3は、Y2に対し、グルパール19Sの「安全性データシート」において、危険性、有害性に関する情報が十分でなく、使用者が自ら試験によって確認することを求める旨の情報提供をしており、被告フェニックスが石けん等の専門業者であったことを踏まえると、リスク情報について一応の表示がされていたといえることができる。

以上の事情を総合すれば、グルパール19Sが完成品の製品設計のいかんにかかわらず社会通念上期待される安全性の水準を欠いているとまでは認められないから、グルパール19Sには欠陥がないものというべきである。」

(b) 京都地裁平成 30.2.20

「グルパール19Sが使用される完成品や、完成品とともに配合される成分等は、極めて広範に及ぶ。そのような原材料の製造業者において、その原材料が使用される可能性がある全ての完成品（完成品とともに配合される成分等）を想定して、その用途全てにおいて安全性を確保した原材料

国際関係研究所研究会
「茶のしずく石鹼事件—福岡訴訟を中心に」

国際関係研究所研究会
「茶のしずく石鹼事件—福岡訴訟を中心に」

を作ることは極めて困難である。Y3 も含め、原材料製造業者は、製造した原材料につき、完成品製造業者に対し、感作性試験を含む安全性試験を実施していないことを製品安全データシートに記載して、当該原材料を販売することが往々にしてあった。そして、グルパール19Sを使用するのは、完成品製造物に関して専門的知識・経験を有する製造業者であり、一般消費者がグルパール19Sそののみを完成品として使用することはない。」

IV 和解

2014 年から 鹿児島地裁 東京地裁 大阪地裁などで 和解案の提示

Y1: 6 Y2: 3 Y3: 1 Y1、Y2 — 応ずる方向 Y3 — 拒否

上記に応じた原告もあり

2018 年～2019 年 京都、東京、福岡、大阪の地裁で判決 2020 年 福岡高裁で判決

2020 年 12 月 18 日 東京地裁、大阪地裁で、被告 3 社が遺憾の意を示したうえ、控訴した被害者全員に、584 万円の解決金(Y1 と Y2 で、554 万円、Y3 が 30 万円)支払う和解が成立

東京外国語大学
国際関係研究所 主催

連続研究会
国際法の共約不可能性に関する国際共同研究

「開発の国際法の再生」

-報告者-
西南学院大学法学部教授 小寺 智史 氏 (国際法)

2021年5月13日 木曜日
午後2時～午後3時30分 (90分)
* ZOOMオンライン研究会

タイムスケジュール

- ・ 小寺智史氏よりご報告 (60分)
- ・ 佐俣紀仁氏 (武蔵野大学法学部准教授・国際法)よりコメント (10分)
- ・ 質疑応答 (20分)
- ・ 司会：松隈潤 (本学教授・国際法)

連続研究会「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」

第1回

題目：開発の国際法の再生

報告者：小寺 智史氏（西南学院大学法学部教授・国際法）

実施日：2021年5月13日

会場：Zoomによるオンライン研究会

2021年5月13日(木)、国際関係研究所は西南学院大学と共同で「連続研究会・国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」(Zoomによるオンライン形式)を開催し、西南学院大学と本学の学生約60名が参加した。本学と西南学院大学は「大学間包括連携に関する協定」を締結しており、今回の研究会はその一環として実現した。

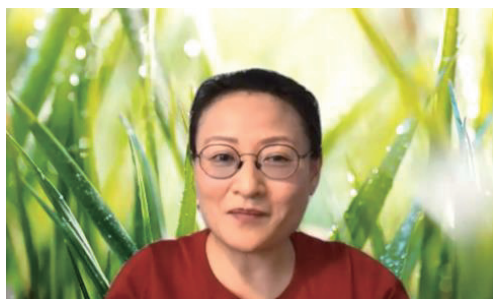
松隈潤副学長による司会のもと、小寺智史 西南学院大学法学部教授(国際法学)より、「開発の国際法の再生」と題したテーマに基づき、開発の国際法の歴史や特徴についてご報告していただいた。小寺教授のご報告後、佐俣紀仁 武蔵野大学准教授(国際法学)よりコメントをいただいた。また、高柴優貴子 西南学院大学法学部教授(国際法学)も加わっていただき、コメントをいただいた。



小寺智史 西南学院大学教授



佐俣紀仁 武蔵野大学准教授



高柴優貴子 西南学院大学教授



松隈潤 本学総合国際学研究院教授

東京外国語大学
国際関係研究所 主催

連続研究会（第2回）
国際法の共約不可能性に関する国際共同研究

「食料への権利の射程」

-報告者-

本学大学院総合国際学研究院教授 松隈 潤 氏 (国際法)

2021年7月29日 木曜日
12時40分～14時10分（90分）
* ZOOMオンライン研究会

タイムスケジュール

- ・ 松隈 潤 氏よりご報告（45分）
- ・ 小寺 智史 氏（西南学院大学法学部教授・国際法）
よりコメント（15分）
- ・ 質疑応答（30分）
- ・ 司会：佐俣 紀仁 氏
（武蔵野大学法学部准教授・国際法）

連続研究会「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」

第2回

題目：食料への権利の射程

報告者：松隈 潤氏（本学総合国際学研究院教授・国際法）

実施日：2021年7月29日

会場：Zoomによるオンライン研究会

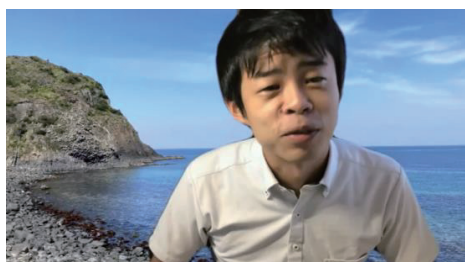
「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」の連続研究会（第2回）として、本学の松隈潤教授が「食料への権利の射程」と題して研究報告を行い、本学が包括連携協定を締結している西南学院大学の小寺智史教授よりコメントがあり、武蔵野大学の佐俣紀仁准教授の司会のもと、国際法研究者、国内法研究者、経済学研究者等の参加を得て、活発な質疑応答、議論が展開された。



松隈潤 本学総合国際学研究院教授



小寺智史 西南学院大学教授



沖祐太郎 九州大学特任准教授



佐俣紀仁 武蔵野大学准教授

東京外国語大学
国際関係研究所 主催

連続研究会（第3回）
国際法の共約不可能性に関する国際共同研究

「共約不可能性と国際法」

-報告者-

東北医科薬科大学専任講師 加藤 雄大 氏 (国際法)

2021年10月18日 月曜日

16時00分～17時30分（90分）

* ZOOMオンライン研究会

タイムスケジュール

- ・ 加藤 雄大 氏よりご報告（60分）
- ・ 佐藤 義明 氏（成蹊大学法学部教授・国際法）
よりコメント（15分）
- ・ 質疑応答（15分）
- ・ 司会：松隈 潤 氏
（本学大学院総合国際学研究院 教授・国際法）

連続研究会「国際法の共約不可能性に関する共同研究」

第3回

題目：共約不可能性と国際法

報告者：加藤 雄大氏（東北医科薬科大学専任講師・国際法）

実施日：2021年10月18日

会場：Zoomによるオンライン研究会

「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」の連続研究会（第3回）として、東北医科薬科大学専任講師の加藤雄大氏が「共約不可能性と国際法」と題して研究報告を行い、成蹊大学法学部の佐藤義明教授よりコメントがあり、本学の松隈潤教授の司会のもと、国際法研究者、本学大学院生・学部生の参加を得て、活発な質疑応答、議論が展開された。



加藤雄大 東北医科薬科大学専任講師



松隈潤 本学総合国際学研究院教授



佐藤義明 成蹊大学教授



小寺智史 西南学院大学教授



佐俣紀仁 武蔵野大学准教授

東京外国語大学
国際関係研究所 主催

連続研究会（第4回）
国際法の共約不可能性に関する国際共同研究

「国際法の歴史を研究することには どのような意味があるか」

-報告者-

九州大学名誉教授、放送大学教授 柳原 正治 氏 (国際法)

2021年12月13日 月曜日
12時40分～14時10分（90分）
* ZOOMオンライン研究会

タイムスケジュール

- ・ 柳原 正治 氏よりご報告（55分）
- ・ 質疑応答（35分）
- ・ 司会：松隈潤氏
（本学大学院総合国際学研究院 教授・国際法）

連続研究会「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」

第4回

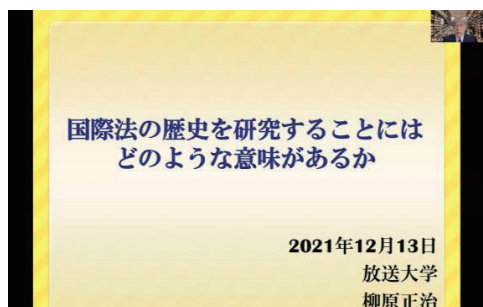
題目：国際法の歴史を研究することにはどのような意味があるか

報告者：柳原 正治氏（九州大学名誉教授、放送大学教授・国際法）

実施日：2021年12月13日

会場：Zoomによるオンライン研究会

「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」の連続研究会（第4回）として、放送大学特別名誉教授・九州大学名誉教授の柳原正治氏が「国際法の歴史を研究することにはどのような意味があるか」と題して研究報告を行い、本学の松隈潤教授の司会のもと、国際法研究者、本学大学院生・学部生の参加を得て、活発な質疑応答、議論が展開された。本学の篠田英朗教授、九州大学の沖祐太郎准教授および本学学生からの質問があった。



柳原正治 九州大学名誉教授、放送大学教授



松隈潤 本学総合国際学研究院教授



沖祐太郎 九州大学特任准教授



篠田英朗 本学総合国際学研究院教授

主催: 東京外国語大学 国際関係研究所
共催: 西南学院大学

連続研究会

「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」 (ZOOMオンライン研究会)

■第5回 2022年3月10日(木)
14時00分～15時30分(90分)

「国家管轄権外区域に適用される法原則としての
『人類の共同の財産』について」

報告者 佐俣 紀仁 氏 (武蔵野大学准教授・国際法)
討論者 加藤 雄大 氏 (東北医科薬科大学講師・国際法)
司会 小寺 智史 氏 (西南学院大学教授・国際法)

■第6回 2022年3月16日(水)
14時00分～15時30分(90分)

「国際人権法についての共約不可能性
—性的指向に関する法的信念の分断を例として」

報告者 佐藤 義明 氏 (成蹊大学教授・国際法)
討論者 沖 祐太郎 氏 (九州大学特任准教授・国際法)
司会 小寺 智史 氏 (西南学院大学教授・国際法)

■第7回 2022年3月31日(木)
14時00分～15時30分(90分)

「国際法学における『地域』観念の意義」

報告者 沖 祐太郎 氏 (九州大学特任准教授・国際法)
討論者 松隈 潤 氏 (本学大学院総合国際学研究院 教授・国際法)
司会 小寺 智史 氏 (西南学院大学教授・国際法)

連続研究会「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究

第5回

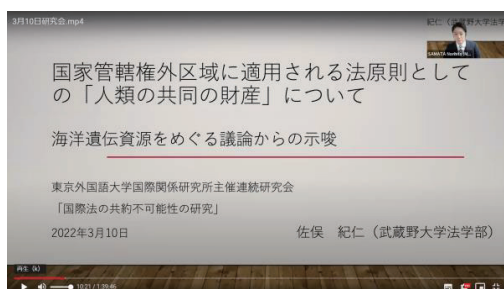
題目：国家管轄権外区域に適用される法原則としての「人類の共同の財産」について

報告者：佐俣 紀仁氏（武蔵野大学准教授・国際法）

実施日：2022年3月10日

会場：Zoomによるオンライン研究会

「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」の連続研究会（第5回）として、武蔵野大学准教授の佐俣紀仁氏が「国家管轄権外区域に適用される法原則としての『人類の共同の財産』について」と題して研究報告を行い、西南学院大学の小寺智史教授の司会のもと、国際法研究者、本学大学院生・学部生等の参加を得て、活発な質疑応答、議論が展開された。東北医科薬科大学の加藤雄大講師よりは討論者としてコメントをいただいた。



佐俣紀仁 武蔵野大学准教授



加藤雄大 東北医科薬科大学専任講師



沖祐太郎 九州大学特任准教授



小寺智史 西南学院大学教授

主催: 東京外国語大学 国際関係研究所
共催: 西南学院大学

連続研究会

「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」 (ZOOMオンライン研究会)

■第5回 2022年3月10日(木)
14時00分～15時30分(90分)

「国家管轄権外区域に適用される法原則としての
『人類の共同の財産』について」

報告者 佐俣 紀仁 氏 (武蔵野大学准教授・国際法)
討論者 加藤 雄大 氏 (東北医科薬科大学講師・国際法)
司会 小寺 智史 氏 (西南学院大学教授・国際法)

■第6回 2022年3月16日(水)
14時00分～15時30分(90分)

「国際人権法についての共約不可能性
—性的指向に関する法的信念の分断を例として」

報告者 佐藤 義明 氏 (成蹊大学教授・国際法)
討論者 沖 祐太郎 氏 (九州大学特任准教授・国際法)
司会 小寺 智史 氏 (西南学院大学教授・国際法)

■第7回 2022年3月31日(木)
14時00分～15時30分(90分)

「国際法学における『地域』観念の意義」

報告者 沖 祐太郎 氏 (九州大学特任准教授・国際法)
討論者 松隈 潤 氏 (本学大学院総合国際学研究院 教授・国際法)
司会 小寺 智史 氏 (西南学院大学教授・国際法)

連続講演会第6回 国際法の共約不可能性に関する国際共同研究
 「国際人権法についての共約不可能性—性的指向に関する法的信念の分断を例として」

連続研究会「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」

第6回

題目：国際人権法についての共約不可能性—性的指向に関する法的信念の分断を例として

報告者：佐藤 義明氏（成蹊大学教授・国際法）

実施日：2022年3月16日

会場：Zoomによるオンライン研究会

「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」の連続研究会（第6回）として、成蹊大学教授の佐藤義明氏が「国際人権法についての共約不可能性—性的指向に関する法的信念の分断を例として」と題して研究報告を行い、西南学院大学の小寺智史教授の司会のもと、国際法研究者、本学大学院生・学部生等の参加を得て、活発な質疑応答、議論が展開された。九州大学の沖祐太郎特任准教授より討論者としてコメントをいただいた。



佐藤義明 成蹊大学教授



佐俣紀仁 武蔵野大学准教授



沖祐太郎 九州大学特任准教授



小寺智史 西南学院大学教授



松隈潤 本学大学院総合国際学研究院教授

主催: 東京外国語大学 国際関係研究所
共催: 西南学院大学

連続研究会

「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」 (ZOOMオンライン研究会)

■第5回 2022年3月10日(木)
14時00分～15時30分(90分)

「国家管轄権外区域に適用される法原則としての
『人類の共同の財産』について」

報告者 佐俣 紀仁 氏 (武蔵野大学准教授・国際法)
討論者 加藤 雄大 氏 (東北医科薬科大学講師・国際法)
司会 小寺 智史 氏 (西南学院大学教授・国際法)

■第6回 2022年3月16日(水)
14時00分～15時30分(90分)

「国際人権法についての共約不可能性
—性的指向に関する法的信念の分断を例として」

報告者 佐藤 義明 氏 (成蹊大学教授・国際法)
討論者 沖 祐太郎 氏 (九州大学特任准教授・国際法)
司会 小寺 智史 氏 (西南学院大学教授・国際法)

■第7回 2022年3月31日(木)
14時00分～15時30分(90分)

「国際法学における『地域』観念の意義」

報告者 沖 祐太郎 氏 (九州大学特任准教授・国際法)
討論者 松隈 潤 氏 (本学大学院総合国際学研究院 教授・国際法)
司会 小寺 智史 氏 (西南学院大学教授・国際法)

連続研究会「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」

第7回

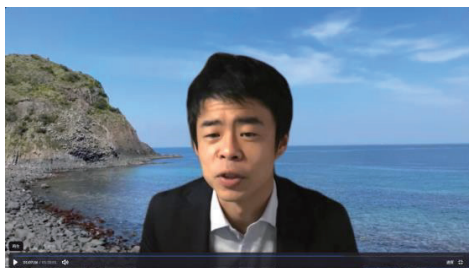
題目：国際法学における「地域」観念の意義

報告者：沖 祐太郎氏（九州大学特任准教授・国際法）

実施日：2022年3月31日

会場：Zoomによるオンライン研究会

「国際法の共約不可能性に関する国際共同研究」の連続研究会（第7回）として、九州大学の沖祐太郎特任准教授が「国際法学における『地域』観念の意義」と題して研究報告を行い、西南学院大学の小寺智史教授の司会のもと、国際法研究者、本学大学院生・学部生等の参加を得て、活発な質疑応答、議論が展開された。本学の松隈潤教授が討論者としてコメントを行った。



沖祐太郎 九州大学特任准教授



松隈潤 本学総合国際学研究院教授



佐俣紀仁 武蔵野大学准教授



加藤雄大 東北医科薬科大学専任講師



小寺智史 西南学院大学教授

第1回 東南アジア・アフリカ間米貿易研究会

2021年7月27日(火)
午後1時～午後2時30分

〈ZOOMオンライン形式〉

東京外国語大学 国際関係研究所・研究会
「国際食糧安全保障と東南アジア」
(代表・宮田敏之)

報告者・宮田 敏之 (東京外国語大学 教授)

「国際食料安全保障と東南アジアからアフリカへの米輸出
：タイの事例」

参加者・小林知 (京都大学 教授)

▪ 高橋 暉 (東海大学 教授)

▪ 坂井真紀子 (東京外国語大学 准教授)

〈共催〉

京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点

「東南アジア研究の国際共同研究拠点」

▪ 令和3年度共同研究

「国際食料安全保障と東南アジアの米輸出」

(研究代表者・宮田敏之)

東南アジア・アフリカ間米貿易研究会
 第1回

報告：国際食料安全保障と東南アジアからアフリカへの米輸出：タイの事例

報告者：宮田 敏之氏（本学大学院総合国際学研究院 教授）

参加者：坂井 真紀子氏（本学大学院総合国際学研究院 准教授）

高橋 壘氏（東海大学 教授）

小林 知氏（京都大学 教授）

実施日：2021年7月27日

会場：Zoomによるオンライン研究会

<共催>

- ・京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点
 「東南アジア研究の国際共同研究拠点」
- ・令和3年度共同研究「国際食料安全保障と東南アジアの米輸出」
 （研究代表者 宮田 敏之氏）

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う世界経済の悪化により、国際食料安全保障の重要性がますます高まっている。本研究会では、主要米輸出地域である東南アジア大陸部から世界有数の米輸入地域であるアフリカへの米輸出を通じて、国際食糧安全保障の現状と課題を検討した。特に、アフリカ向けの輸出が全輸出量の半分に達するタイから、アフリカへの米輸出の変容を研究代表者の宮田敏之教授（東京外国語大学）が報告した。研究会参加者3名がそれぞれの専門の立場からコメントをおこない、活発な議論がなされた。

2021年7月27日午後1時～午後2時半

国際食料安全保障と東南アジアから
 アフリカへの米輸出：タイの事例

宮田敏之（東京外国語大学）

・東京外国語大学国際関係研究所・研究会「国際食糧安全保障とアジア・アフリカ」
 ・京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点「東南アジア研究の国際共同研究拠点」
 令和3年度共同研究「国際食料安全保障と東南アジアの米輸出—アフリカ向けタイ米輸出を中心に」
 （研究代表者・宮田敏之）



◎タイ米輸出：地域別：2019年&2020年・単



	2019		2019 Baht/Ton	2020		2020 Baht/Ton
	Volume	Value		Volume	Value	
World	7,583,662	130,585	17,218.3	5,734,038	116,045	20,237.9
Africa	4,104,923	54,196	13,202.7	2,760,546	41,876	15,189.5
Asia	2,267,469	39,978	17,631.1	1,639,215	34,758	21,204.1
North America	657,296	22,593	34,372.6	789,644	25,546	32,351.3
Europe	369,386	9,114	24,673.4	304,886	8,308	27,249.5
Oceania	162,178	4,224	26,045.5	176,368	4,533	25,701.9
South America	14,026	261	18,608.3	53,152	776	14,599.6
Central America	8,388	220	26,227.9	10,232	249	24,335.4

第2回 東南アジア・アフリカ間米貿易研究会

2022年2月7日(月)
午後4時～午後5時30分

〈ZOOMオンライン形式〉

- 報告① 午後4時～午後4時20分
報告者：高橋壘（東海大学）
"PADDY TRADE AND MARKET STRUCTURE IN THE COLONIAL MEKONG RIVER DELTA
:AN APPLICATION OF SOCIAL NETWORK ANALYSIS"
- 質疑 午後4時20分～午後4時30分
- 報告② 午後4時30分～午後5時
報告者：宮田敏之（東京外国語大学）
「東南アジア（タイ）の米輸出とアフリカの米輸入」
- コメント 午後5時～午後5時20分
小林知（京都大学）、坂井真紀子（東京外国語大学）
- 全体討論 午後5時20分～午後5時40分

京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点
「東南アジア研究の国際共同研究拠点」

令和3年度共同研究

「国際食料安全保障と東南アジアの米輸出ーアフリカ向けタイ米輸出を中心に」

〈 共催：東京外国語大学 国際関係研究所研究会 〉

東南アジア・アフリカ間米貿易研究会

第2回

報告：

- ① Paddy Trade and Market Structure in the Colonial Mekong River Delta: An Application of Social Network Analysis

報告者：高橋 壘氏（東海大学 教授）

- ② 東南アジア（タイ）のコメ輸出とアフリカのコメ輸入

報告者：宮田 敏之氏（本学大学院総合国際学研究院 教授）

コメント：坂井 真紀子氏（本学総合国際学研究院 准教授）

小林 知氏（京都大学 教授）

実施日：2022年2月7日

会場：Zoomによるオンライン研究会

<共催>

京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点

「東南アジア研究の国際共同研究拠点」

・令和3年度共同研究「国際食料安全保障と東南アジアの米輸出—アフリカ向けタイ米輸出を中心に」（研究代表者 宮田敏之）

研究会では、2名の報告があり、最後に総合討論をおこなった。第一報告では、高橋壘教授（東海大学）が、20世紀前半のベトナムメコンデルタの籾米流通データを整理し、An Application of Social Network Analysis という手法を用いて、籾米をめぐる産地・集散地のネットワークの解明を試みた。第二報告では、宮田敏之教授（東京外国語大学）が、アフリカにおける米消費の重要性と米消費に占める米輸入の割合について概説した後、新型コロナウイルス感染拡大前後のアフリカの米輸入の変化と主要輸入国別の輸入元について分析を加え、アフリカ向け米輸出国としてインド、タイ、ベトナムの重要性を指摘した。同時に東南アジア、特に、タイの新型コロナウイルス感染拡大前後の米生産と米輸出、特にアフリカ向け米輸出の動向を整理し、国内の干ばつ、米生産の減少、それに伴う輸出価格の上昇によって、2020年2021年には米の輸出が3割近く急減した状況をデータに基づき解説した。総合討論では、アフリカの都市化と米需要拡大に関する分析やアフリカの多様な食文化の中の米の位置づけに関する再検討の重要性が指摘された。また、国際食糧安全保障を検討するにあたって、輸入国の米需給のみならず、天候、農業政策、為替に左右される米輸出国側の米供給の不安定性についても、総合的に検証する検討すべきだという意見が出され、充実した討論が行われた。

第2回東南アジア・アフリカ間米貿易研究会 (online)
2022年2月7日

Paddy Trade and Market Structure in the Colonial Mekong River Delta: An Application of Social Network Analysis

東海大学政治経済学部

高橋 壘

* This study was supported by JSPS KAKENHI Grant-in-Aid for Scientific Research (S) [Grant Number JP17H06116, principal investigator: Tomoko Shiroyama (The University of Tokyo)], Grant-in-Aid for Scientific Research (C) [Grant Number JP19K06279, principal investigator: Rui Takahashi] and Fostering Joint International Research (B) [Grant Number JP19KK0170, principal investigator: Kazunari Tsuji (Saga University)].

東南アジア・
アフリカ間米貿易研究会

2022年2月7日午後4時～午後5時半

東南アジア（タイ）の米輸出と アフリカの米輸入

宮田敏之（東京外国語大学）

・東京外国語大学国際関係研究所・研究会「国際食糧安全保障とアジア・アフリカ」
・京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点「東南アジア研究の国際共同研究拠点」
令和3年度共同研究「国際食料安全保障と東南アジアの米輸出ーアフリカ向けタイ米輸出を中心に」
(研究代表者・宮田敏之)



高橋 暉 東海大学教授



宮田敏之 本学大学院総合国際学研究院教授



坂井真紀子 本学大学院総合国際学研究院准教授



小林知 京都大学教授

2021 年度リレー講義
「アジア共同体を考える」

2021年度世界教養プログラム 国際関係研究所主催リレー講義

「アジア共同体を考える」

本講座は、アジア域内の統合や連携に着目し、アジアのダイナミックな変化の諸相を、様々な角度から検討します。

講義は、本学教員と学外専門家が、リレー形式で行います。

◆講義日程（全13回）

第1回	10月4日	ガイダンス&日本の国際サプライチェーンと東南アジア	宮田 敏之	東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 教授
第2回	10月11日	戦後中台対立/交流の最前線・金門島から考える	山崎 直也	帝京大学外国語学部外国語学科 教授
第3回	10月18日	香港：変質する一国二制度	遊川 和郎	亜細亜大学アジア研究所 教授
第4回	10月25日	真理の探究	佐藤 洋治	ユーラシア財団 from Asia 理事長
第5回	11月1日	日韓関係を考える	丹羽 泉	東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 教授
第6回	11月8日	日系ディベロッパーのアジア事業戦略	相川 雅人	三菱地所アジア社 社長
第7回	11月15日	アジア太平洋とメキシコ：日系自動車産業の事例	内山 直子	東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 准教授
第8回	11月29日	コロナ禍を通して見たロシアと世界	志田 仁完	環日本海経済研究所 研究員
第9回	12月6日	インド太平洋の地域秩序変容と日本	大庭 三枝	神奈川大学 教授
第10回	12月13日	米中対立と東アジア	山本 吉宣	東京大学 名誉教授
第11回	12月20日	中国の対外経済政策の近況：一带一路の成果と課題	大西 康雄	科学技術振興機構 特任フェロー
第12回	1月10日	ミャンマーの政変と今後を考える	中西 嘉宏	京都大学東南アジア地域研究 研究所 准教授
第13回	1月17日	グローバル世界の日本農業	小林 寛史	IDACA：アジア農業協同組合 振興機関 常務理事

秋学期 月曜2限 10時10分～11時40分

ZOOMによるオンライン講義形式

東京外国語大学 国際関係研究所

リレー講義「アジア共同体を考える」


(秋学期月曜2限)

2021年度実施一覧


学会や実務の世界で活躍する学外からの講師と本学の教員が、グローバルな視角から今日のアジアが直面する問題を、地域統合を切り口に論じるリレー講義「アジア共同体を考える」。本年度も多くの学生が受講した。以下に講義一覧を示す。

1	<p style="text-align: center;">リレー講義「アジア共同体を考える」 第1回</p> <p style="text-align: center;">ガイダンス & 日本の国際サプライチェーンと東南アジア</p> <p style="text-align: center;">宮田敏之 東京外国語大学大学院総合国際学研究院 国際関係研究所・所長 国際社会学部タイ地域研究</p> <p style="text-align: center;">2021年10月4日</p>	<p>2021年10月4日 宮田 敏之氏 (本学大学院総合国際学研究院教授) 「ガイダンス&日本の国際サプライチェーンと東南アジア」</p>
2	<p style="text-align: center;">リレー講義「アジア共同体を考える」 第2回</p> <p style="text-align: center;">戦後中台対立／交流の最前線・金門島から考える</p> <p style="text-align: center;">山崎直也 帝京大学外国語学部外国語学科教授</p> <p style="text-align: center;">2021年10月11日</p>	<p>2021年10月11日 山崎 直也氏 (帝京大学外国語学部外国語学科教授) 「戦後中台対立／交流の最前線・金門島から考える」</p>

<p>3</p>	<p style="text-align: center;"> <東京外国語大学リレー講義> 「アジア共同体を考える」 第3回 「香港：変質する一国二制度」 2021年10月18日 亜細亜大学 アジア研究所 遊川 和郎 yukawa@asia-u.ac.jp </p>	<p>2021年10月18日 遊川 和郎氏 （亜細亜大学アジア研究所教授） 「香港：変質する一国二制度」</p>
<p>4</p>	<p style="text-align: center;"> リレー講義「アジア共同体を考える」 第4回 真理の探究 佐藤洋治 ユーラシア財団 from Asia 理事長 2021年10月25日 </p>	<p>2021年10月25日 佐藤 洋治氏 （ユーラシア財団 from Asia 理事長） 「真理の探究」</p>
<p>5</p>	 <p style="text-align: center;"> 日韓関係を考える ～「竹島問題」について 東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 教授 丹羽 泉 </p>	<p>2021年11月1日 丹羽 泉氏 （本学大学院総合国際学研究院教授） 「日韓関係を考える」</p>

<p>6</p>	<p>リレー講義「アジア共同体を考える」 第6回</p> <p>日系ディベロッパーのアジア事業戦略</p> <p>相川雅人 三菱地所アジア社 社長</p> <p>2021年11月8日</p>	<p>2021年11月8日 相川 雅人氏 (三菱地所アジア社 社長) 「日経ディベロッパーのアジア事業戦略」</p>
<p>7</p>	<p>アジア太平洋とメキシコ： 日系自動車産業の事例</p> <p>リレー講義「アジア共同体を考える」 2021年11月15日</p> <p>内山直子</p>	<p>2021年11月15日 内山 直子氏 (本学大学院総合国際学研究院准教授) 「アジア太平洋とメキシコ：日系自動車産業の事例」</p>
<p>8</p>	 <p>コロナ禍を渡してみた ロシアと世界</p> <p>志田 仁完</p> <p>Economic Research Institute for Northeast Asia shida.yoshisada.2@erina.or.jp</p>	<p>2021年11月29日 志田 仁完氏 (環日本海経済研究所 研究員) 「コロナ禍を渡してみたロシアと世界」</p>

<p>9</p>		<p>2021年12月6日 大庭 三枝氏 （神奈川県立大学教 授） 「インド太平洋の 地域秩序変容と日 本」</p>
<p>10</p>		<p>2021年12月13日 山本 吉宣氏 （東京大学名誉教 授） 「米中対立と東ア ジア」</p>
<p>11</p>	<p>東京外国語大学「アジア共同体を考える」講義資料</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>中国の対外経済政策の近況 ～一帯一路の成果と課題～</p> </div> <p>2021年12月20日</p> <p>  科学技術振興機構・特任フェロー 大西 康雄 </p>	<p>2021年12月20日 大西 康雄氏 （科学技術振興機 構 特任フェロ ー） 「中国の対外経済 政策の近況：一帯 一路の成果と課 題」</p>

12	 <p>ミャンマーの政変と今後を考える</p> <p>京都大学・東南アジア地域研究研究所 中西嘉宏</p> <p>東京外国語大学・リレー講義「アジア共同体を考える」</p>	2022年1月10日 中西 嘉宏氏 (京都大学東南アジア地域研究研究所准教授) 「ミャンマーの政変と今後を考える」
13	 <p>グローバル世界の日本農業 ~世界を結ぼう農民の手で~</p> <p>2022年1月17日 一般財団法人 アジア農業協同組合振興機関 (IDACA) Institute for the Development of Agricultural Cooperation in Asia</p> <p>常務理事 小林寛史</p>	2022年1月17日 小林 寛史氏 (IDACA: アジア農業協同組合振興機関 常務理事) 「グローバル世界の日本農業」

その他のイベント

本国際関係研究所が主催（運営および調整は学会事務局・幹事会が主体）した2021年度（第二回）TUFSGローバル・スタディーズ学会の大会プログラムを転載する。

AGSTUFGローバル・スタディーズ学会
2021年度（第二回）大会プログラム
The Second Convention of Association of Global Studies (AGS-TUFG)

大会概要 Date & Registration

開催日：2021年12月25日（土） Date: December 25, 2021
会議システムとしてzoomウェビナーを使用します。 Venue: Online (Zoom)

*共通論題と特別分科会については、非会員にもご参加いただけます。
その他の分科会は、会員限定です。

* Non-AGS members may register for the Plenary Session and the Special Session.
Registration for other sessions is for AGS members only.

報告一覧 Program

午前の部：共通論題 午前10：00～12：00 使用言語：日本語

「地域研究の手法と実践の可能性」司会：岩崎稔（総合国際学研究院） [一般公開]

報告1：舩方 周一郎（世界言語社会教育センター）

「比較地域研究の手法と実践」

報告2：菊池 陽子（総合国際学研究院）

「東京外国語大学における地域研究の模索ーコンフリクト科研を例にー」
（仮）

報告3：酒井 啓子（千葉大学グローバル関係融合研究センター長・教授）

「地域研究からグローバル関係学へ」 （仮）

午後の部：分科会 13：00～16：30

分科会1 政治・紛争 司会：萬宮健策（総合国際学研究院） [会員限定]

報告1：ライ ユエイ（博士後期課程）（13：00～13：45） 使用言語：日本語

報告2: 郷澤 圭介 (総合国際学研究院・特別研究員) (13:55~14:40) 使用言語: 日本語

「後古典期後期ユカタン・マヤ村落共同体の軍事力運用」

討論: 大越 翼 (京都外国語大学・教授)

報告3: 佐藤ひとみ (博士後期課程) (14:50~15:35) 使用言語: 日本語

「第二次大戦期スロヴァキア国への歴史認識と、スロヴァキア国家像を巡る議論」

討論: 鈴木 健太 (神田外語大学・講師)

報告4: Inoue, Naomi (15:45~16:30) 使用言語: 英語

“Business development and community engagement with respect to human rights in Southern Province, Sierra Leone”

討論: 山田 美和 (アジア経済研究所 新領域研究センター 法・制度研究グループ長)

分科会2 文学・文化 司会: 水野善文 (総合国際学研究院) [会員限定]

報告1: イドジーエヴァ・ジアーナ (博士後期課程) (13:00~13:45) 使用言語: 日本語

「今村夏子『こちらあみ子』における排除構造」

討論: 西原大輔 (国際日本学研究院)

報告2: 粟生田杏奈 (博士後期課程) (13:55~14:40) 使用言語: 日本語

「近現代ロシア文化に見られるクマの表象分析 ——文学・映像作品における、人からクマへの変身譚を中心に考察する」

討論: 小久保真理江 (総合国際学研究院)

報告3: 勅使河原章 (博士後期課程) (14:50~15:35) 使用言語: 日本語

「アジア太平洋戦期・対仏印文化交流政策: 東宝舞踏団の仏印公演と宝塚歌劇団のベトナム伝説「コーロア物語」日本公演」

討論: 今井昭夫 (世界言語社会教育センター)

報告4: ヴァシャニーナ・リュドミーラ (博士後期課程) (15:45~16:30)

使用言語: 日本語

「江戸時代の子供文化にみるヨーロッパ玩具」

討論: 篠原琢 (総合国際学研究院)

分科会3 教育・持続可能性

司会: 澤田 ゆかり (総合国際学研究院) [会員限定]

- 報告1：朱松松（博士後期課程）（13：00～13：45） 使用言語：日本語
「日本の小学校における食育に関する考察—政策分析を中心として—」
討論：春名展生（国際日本学研究院）
- 報告2：エンフバヤル・ソロンゴ（博士後期課程）（13：55～14：40）
使用言語：日本語 「持続可能な開発のための教育（ESD）の新たな展開についての一考察」
討論：加藤美帆（総合国際学研究院）
- 報告3：Shiningayamwe Dorthea Nanghali Etuwete（博士後期課程）（14：50～15：35） 使用言語：英語
“An Analysis of the Implementation of the Namibian Education Sector Policy for the Prevention and Management of Teenage Pregnancies”
討論：大橋史恵（お茶の水女子大学 ジェンダー研究所・准教授）
- 報告4：ONCHOYSAKUL, Srikanlaya（博士後期課程）（15：45～16：30）
使用言語：英語
“Efficiency of Automatic Speech Recognizer and Insights into Pronunciation Training”
討論：周育佳（世界言語社会教育センター）

特別分科会 ロシアの文化と文学（神戸市外国語大学・本学合同セミナー）

司会：沼野恭子（総合国際学研究院） [一般公開]

- 報告1：井伊裕子（本学・博士後期課程）（13：00～13：45） 使用言語：日本語
「移動展覧会における風景画と風俗画—ミャソエードフ《ライ麦畑の道》、
《農繁期。草を刈る人》を手がかりに」
討論：清水俊行（神戸市外国語大学・教授）
- 報告2：平鳶寛大（神戸市外大・博士後期課程）（13：55～14：40） 使用言語：日本語
「喜劇『小間物商人』に見る「ロシア文化への順化」—『おもちゃ屋』、
『宝飾品店』との比較を通じて—」
討論：前田和泉
- 報告3：横山綾香（博士後期課程）（14：50～15：35） 使用言語：日本語
「モスクワ・タガンカ劇場『反世界』におけるブレヒトの影響：リュビーモフ
詩劇のプロトタイプとして」
討論：上田洋子（ロシア文学者・株式会社ゲンロン代表取締役）
- 報告4：プロホロワ・マリヤ（博士後期課程）（15：45～16：30）
使用言語：日本語 「越境する現代ロシア詩：リノール・ゴラーリクの動物表象をめぐって」
討論：前田和泉（総合国際学研究院）

総会 12月25日（土）午後17：00～17：30

【国際関係研究所定期刊行物紹介】

『国際関係論叢』第十一巻第一号（令和4年5月31日発行）

■Akito Okada, “Current debate on shifting the academic year from April-start to September-start in the Japanese School System”

『国際関係論叢』第十巻第二号（令和3年11月30日発行）

■BINOD Bhattarai, “The Barriers to Community Forest Management: A Case Study of Community Forest User Groups in Nepal”

『国際関係論叢』第十巻第一号（令和3年10月18日発行）

■金井 光太郎「20年アメリカ大統領選挙の結果と左派ポピュリズムの可能性」
■BINOD Bhattarai, “Challenges to the peace process in Nepal”

『国際関係論叢』第九巻第一・二号（令和2年11月30日発行）

■松隈 潤「SDGsと食料への権利～域外義務視点から～」

『国際関係論叢』第八巻第二号（令和元年11月30日発行）

■BINOD Bhattarai, “Community Forestry and Forest Management Policies in Nepal”

『国際関係論叢』第八巻第一号（令和元年9月30日発行）

■松隈 潤「食料への権利と域外義務 ～アフリカの事例を中心として～」
■Hideaki Shinoda, “Partnership Peace Operations in Multi-layered International Security: An Examination of the Involvement of Regional and Sub-regional Organizations in International Peace Operations”
■Michiko Suzuki, “The Emergence of Modern Humanitarian Activities: The Evolution of Japanese Red Cross Movement from Local to Global”

『国際関係論叢』第七巻第二号（平成30年11月30日発行）

■鈴木 美弥子「責任能力のない精神障害者の近親者の責任について」
■洪 性旭「日本社会における難民受け入れの論点－日韓比較の可能性」

『国際関係論叢』第七巻第一号（平成30年4月27日発行）

■倉石 一郎「革新主義期改革者における「北部黒人問題」認識と教育－ニューヨーク市公教育協会刊行『本市における黒人学童』（1915）再論一」

『国際関係論叢』第六巻第二号（平成29年9月29日発行）

■篠田 英朗「アフリカ諸国による国際刑事裁判所（International Criminal Court: ICC）脱退の動きの国際秩序論の視点からの検討」
■洪 性旭「日本社会におけるソーシャルビジネス理念型の構築にむけて：国際的な議論の現状と日本における含意」

『国際関係論叢』第六巻第一号（平成29年7月31日発行）

■鈴木 美弥子「責任能力のない未成年者の親権者の監督義務者責任について」

『国際関係論叢』第五巻第一・二号（平成28年7月31日発行）

- Kumiko Uno and Teppei Nagai, "Literacy Development through Early Childhood Development Program in India"
- 鈴木 美弥子「ドイツにおける不動産売買と瑕疵担保責任」

『国際関係論叢』第四巻第二号（平成27年7月31日発行）

- 松隈 潤「国際社会における武力行使禁止原則の変容（三・完）」
- 若松 邦弘「支持の地位的拡大と多様性—地方議会における連合王国独立党（UKIP）の伸長—」

『国際関係論叢』第四巻第一号（平成27年1月31日発行）

- Kumiko Uno and Teppei Nagai, "The Effect of Early Childhood Development in South Asia"
- Hideaki Shinoda, "Human Rights, Democracy and Peace in International Constitutionalism of Universal International Society"

『国際関係論叢』第三巻第二号（平成26年7月31日発行）

- 松隈 潤「国際人権法の課題—拷問等禁止条約と日本—」
- Kanami Ishibashi, "The Critical Implications from the Past: The Relationship between the ROK and Japan and the Effectiveness of the Policies including its Original Economic Sanctions against the DPRK"
- 若松 邦弘「イギリスにおける都市政策のアジェンダ変化—自由主義レジームにおける社民主義政権の改革とジレンマ—」

『国際関係論叢』第三巻第一号（平成26年1月31日発行）

- Kimiko Uno and Sho Sakuma, "Foreign Direct Investment into the Western Balkans: The Statistical Analysis of Determinants in Bilateral Investment"
- 渡邊 啓貴「フランスにおける欧州統合の国内化と「EU アイデンティティ」—リスボン条約成立に向けたフランスの貢献とその背景—」

『国際関係論叢』第二巻第二号（平成25年7月31日発行）

- 倉石 一郎「爆発的拡大のための雌伏—米国ビジティング・ティーチャーの大恐慌時代—」
- 梅村 裕子「今岡十一郎の活動を通して観る日本・ハンガリー外交関係の変遷」
- 若松 邦弘「自由主義右派の政党組織化—連合王国独立党（UKIP）の展開と政党政治上の意味—」
- [書評] Sayaka Funada-Classen, "Fukushima, ProSAVANA and Ruth First: Examining Natália Fingermann's "Myths behind the ProSAVANA""

『国際関係論叢』第二巻第一号（平成25年1月31日発行）

- Akito Okada, "The Historical Transformation of the Concept of Equality of Educational Opportunity in Post-war England and Japan"
- Kimiko Uno and Sumire Kobayashi, "The Effect to the Economic Growth by Labor Migration: From the Viewpoint of the Stock of the Human Capital"

『国際関係論叢』第一巻第二号（平成 24 年 9 月 28 日発行）

■ 渡邊 啓貴「2012 年フランス大統領選挙の分析—新しいスタイルの大統領サルコジの敗因とオランダの戦略—」

■ Kimiko Uno and Sumire Kobayashi, "The Contribution to Economic Growth by Human Capital: The Comparison among BRICs"

■ 若松 邦弘「二〇〇〇年代初めの西欧政治における政策志向性の変化—移民・難民の社会統合をめぐる政策論争—」

『国際関係論叢』第一巻第一号（平成 24 年 3 月 30 日発行）

■ Kimiko Uno, "Poverty Ratios in Asia and Sub-Saharan Africa based on Logit Models"

■ 松隈 潤「国際法と「人間の安全保障」」

■ 若松 邦弘「改革の制度的矛盾と政治問題への展開—イングランドにおける交付金制度改革の執行過程—」

※当研究所ホームページ（<http://www.tufs.ac.jp/common/fs/iir/publications.html>）より、収録論文の電子資料（PDF）をご覧ください。

■所長

宮田 敏之 (MIYATA, Toshiyuki) : タイ経済研究、東南アジア経済研究、
タイ社会経済史

■所員 (以下五十音順)

青山 弘之 (AOYAMA, Hiroyuki) : 現代東アラブ政治、思想、歴史
伊勢崎 賢治 (ISEZAKI, Kenji) : 国際関係論
内山 直子 (UCHIYAMA, Naoko) : 経済政策、地域研究
岡田 昭人 (OKADA, Akito) : 比較・国際教育学
小田 なら (ODA, Nara) : 東南アジア、ベトナム、地域研究
片岡 真輝 (KATAOKA, Masaki) : 地域研究、フィジー、集合的記憶
菊地 和也 (KIKUCHI, Kazuya) : 政治経済学、ゲーム理論の政治への応用
日下 渉 (KUSAKA, Wataru) : フィリピン地域研究
坂井 真紀子 (SAKAI, Makiko) : 開発社会学、仏語圏アフリカ、
東アフリカの農村開発、モラルエコノミー
澤田 ゆかり (SAWADA, Yukari) : 中国地域研究
篠田 英朗 (SHINODA, Hideaki) : 平和構築
鈴木 美弥子 (SUZUKI, Miyako) : 民事法学
鈴木 義一 (SUZUKI, Yoshikazu) : 現代ロシア地域研究、経済史、
比較経済体制論
田島 陽一 (TAJIMA, Yoichi) : 経済政策、国際関係論
中山 裕美 (NAKAYAMA, Yumi) : 国際関係論、国際協調、移民・難民研究
春名 展生 (HARUNA, Nobuo) : 国際政治学史、日本外交史
舛方 周一郎 (MASUKATA, Shuichiro) : 政治学、国際関係論、現代ブラジル政治
松隈 潤 (MATSUKUMA, Jun) : 国際法学
松永 泰行 (MATSUNAGA, Yasuyuki) : 政治学、国際関係論、現代イラン政治
若松 邦弘 (WAKAMATSU, Kunihiro) : 比較政治、西欧政治

*掲載情報は、2022年8月1日時点のものです。

編集後記

国際関係研究所2021年度年間活動報告書『現代世界の諸相』をお届けする。当研究所設立11年目となるこの年は、11回の研究所主催研究会、13回のリレー講義「アジア共同体を考える」、学内学会である東京外国語大学グローバル・スタディーズ学会（AGS-TUFS）の第2回学術大会をZoomによるオンライン形式で開催した。本研究所所員はもとより、包括連携協定を締結している大学の教員、多彩な専門分野の学外講師に数多く研究報告やご講演をいただいた。今世界では何が起きているのか、国際社会における日本の立ち位置、そして世界から見た日本はどのようなものかなど、当研究所ならではの研究活動を進めることができた。

最後に、本報告書刊行にあたっては、研究所スタッフとリサーチアシスタントの皆さんの労力にすべてを負っていることをここに確認し、心から謝意を表したい。

* 東京外国語大学国際関係研究所 年間活動報告書

<http://www.tufs.ac.jp/common/fs/iir/publications.html#nenpou>

『現代世界の諸相』 編集委員長 宮田敏之

『現代世界の諸相 (Vol. 11 - 2021)』

(東京外国語大学国際関係研究所 令和3年度活動報告書)
2023年3月発行

発行者 東京外国語大学国際関係研究所所長 宮田 敏之

住所 〒183-8534

東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学 国際関係研究所

本学研究講義棟4階401-3

電話 042-330-5480 FAX 042-330-5481

E-mail iir-office@tufs.ac.jp

印刷所 株式会社 松本印刷社